

ーコスト面でのアプローチは企業にとって、魅力的ですよ。しかし、OSSで組んだシステムを導入することを最初から考えている顧客は多いのですか？

正村さん：自社には、OSSを利用したビジネスをサポートする組織が2つあります。一つは、OSSを利用したビジネスの提案をしたり、お客様それぞれに適したシステムを実現するために数々のOSSをコーディネートしたりするOSSソリューションビジネス推進センター。そしてこれまで各産業に提供したシステムで出てきた、同じような課題やお客様から寄せられた実際の問い合わせを集積し、様々なOSSに関するアナウンスと問題に対する解決策をお客様に提案するオープンソース技術開発センターです。この2つの組織が両輪となって、システムを安心して使ってもらえる環境を整えることで、お客様のOSSシステム導入の動機付けにつながっています。

ーサポート体制、万全ですね。さすが日立さんです。ところで、正村さんはご出身はどちらですか？

正村さん：私は長野です。六文銭で有名な真田家のお膝元。

ー松江城には真田幸村の扇子がありますよ。奇遇ですね。ねえ、野崎さん。

野崎さん：私も松江でないので、詳しくは・・・。

ー?!野崎さん、松江の人だと勝手に勘違いしてました。

正村さん：ここにいる人みんな、島根出身ではないですよ。

ー!!!!!!そうなんですか?!ようこそ島根へ。いらっしやいませ。良い所なので長くいてくださいね。

(インタビュアー：沼田)

## Ruby合宿2012夏



2012年8月20(月)から8月24日(金)の5日間、「Ruby合宿2012夏」を開催します。今回はRuby合宿全体のレベルアップのため、8月中旬の週末に事前講義を行います。オープンソースラボにて、RubyのE-Learningサイト「Minituku」を使った学習方法や、Ruby合宿で役立つRubyプログラミングのポイントについて教えます。この事前講義はUstreamにてライブ配信しますので、リモートでのオンライン受講も可能です。

また、例年通り合宿中には県内(IT)企業との交流会や、最終日には発表会・懇談会を行いますので、県内企業の皆様にも人材発掘の場としてご活用下さい。ご連絡は、島根県情報産業振興室、または運営委託先の株式会社イーストバックまでお願い致します。(倉橋)

## 今後のスケジュール



- 8月24日  
オープンソースサロン(松江オープンソースラボ)  
毎月、オープンソースソフトウェアに関する情報を提供しています。
- 9月1日  
オープンソースカンファレンス2012 Shimane/松江Ruby会議(松江テルサ)  
オープンソースソフトウェアに関する発表や展示を行います。
- 10月24日、31日  
OpenOffice.org講習会 Impress入門編(松江オープンソースラボ)  
Impressというプレゼンテーションソフトウェアの使い方を紹介しています。(参加費無料)
- 11月8日～9日  
RubyWorld Conference 2012(くにびきメッセ)  
世界中のRuby関係者が一同に会し、セミナーや展示を行います。(きむら)

このニュースレターはOpenOffice.orgで作られています。

## 「とくしまOSS普及協議会」発足



2012年7月17日(火)、徳島県で産官学によるオープンソースソフトウェア推進団体「とくしまOSS普及協議会」が発足しました。同日、徳島市で記念講演会も開催され、私(野田)も参加、しまねOSS協議会の取組についても紹介をしてきました。記念講演会では徳島県知事の飯泉嘉門氏が挨拶、オーグス総研 エンタープライズオープンソースセンター シニアアーキテクト 橋本誠氏による講演もあり、150名を超える参加者で大盛況でした。



徳島県のホームページ管理システムやグループウェアは、県内の企業がRubyやLinuxなどのOSSを利用して開発し、「自治体OSSキット」として公開しています。今後Rubyを中心にしまねOSS協議会との連携が深まることが期待されます。地域を超えた交流がオープンソースの市場を拡大し、地域の産業振興につながることを確信しました。(野田)

## オープンソースサロン開催報告



- 第66回オープンソースサロン(2012年4月13日(金))  
テーマ1:「Rubyとビジネス」 Rubyによる地域振興  
松江市/塩尻市モデルの事例紹介!!  
講演者: 佐藤弘人氏(株式会社コミュニティ・クリエーション 代表取締役社長)  
松江市図書館システムや塩尻市ひとり親事業などの取り組み事例を通じて、Rubyを活用した地域振興をどのように行うことができるか発表されました。

- テーマ2: Empowering e-Learning through Open Source Software  
講演者: Dr. K. P. Hewagamage氏(島根大学総合理工学部)

OSSのe-ラーニングシステムを活用した教育について説明されました。大学教育にe-ラーニングがどんどん広がっているという大変興味深い話も聞けました。



### ■ 第67回オープンソースサロン(2012年5月11日(金))

テーマ1: オープンソースカンファレンス2012島根の開催について

講演者: きむらしのぶ氏(しまねOSS協議会 サポーター会員)

今年も松江で開催するオープンソースカンファレンスについて紹介されました。

今年は9月1日に開催します。皆さん是非ご参加ください!

テーマ2: Joruri CMSで構築した自治体クラウドの概要

講演者: 野原 直一氏(株式会社アイ・ディ・エス取締役社長)

OSS公開されているCMS「Joruri CMS」を活用した自治体クラウドの事例について発表されました。今後クラウドの利用はどんどん広がっていくことが予想されるので大変参考になりました。

### ■ 第68回オープンソースサロン(2012年6月22日(金))

テーマ1: OSSの市場価値・経済効果について考える

講演者: 谷花 佳介氏(島根大学法文学部・特別研究員)

無償で手に入れることができるOSSの市場価値を計る、という大変興味深いお話でした。

テーマ2: オープンソース経済モデル～IT産業振興に関する一考察

講演者: 福安 徳晃氏(The Linux Foundationジャパンディレクター)

企業がOSSをどのように利用し、どのようなビジネスモデルを確立しているのかという話をされました。トヨタがLinuxFoundationのゴールドメンバーになっているのは驚きでした。自動車業界でもOSSの活用が広がっているようです。

### ■ 第69回オープンソースサロン(2012年7月6日(金))

テーマ1: 島根大学における教養科目としてのRubyプログラミング教育

講演者: 高清水 直美氏(島根大学評価室)

学生のプログラミングスキルのばらつきがあって進行は大変だったようですが、企業エンジニアの話が聞けることなど満足度が高かったようです。この先、専門科目としてRubyの講義が開講されると良いですね。

テーマ2: オープンソースの経済モデル

講演者: Sulayman Sowe氏(UNU-IAS 国連大学高等研究機構)

OSSのコミュニティやエコシステムを理解し、持続可能なビジネスモデルを考えるが大事だとお話がありました。コミュニティに貢献し、コミュニティと良い関係を築くことが大切だなと感じました。(黒谷)



### 会員企業紹介(第9回)

株式会社 日立ソリューションズ

技術統括本部 副統括本部長(兼) Rubyセンタ センタ長 正村 勉 様

技術開発本部 Rubyセンタ技師 野崎 康行 様



正村様(左から二人目)と野崎様(一番左)

〒690-0003 松江市朝日町478番地18

URL: <http://www.hitachi-solutions.co.jp/ruby/>

1970年9月、前身である日立ソフトウェアエンジニアリング(株)設立。2010年2月の(株)日立製作所の完全子会社化、同年10月の日立システムアンドサービスとの合併を経て現在の商号となる。年間売上約2,700億円。従業員約10,000人。Ruby認定技術者は約50人。Rubyでの開発では、「しまね海洋館アクアス」への導入をはじめ、多くの実績を築いている。

ーおじゃまします。おお、ソファにいらっしゃるのは、オープンソースビジネスプランコンテストのご意見番、審査員の正村さん!!そして、優しそうな笑顔は、野崎さん。本日はお世話になります。早速ですが、松江に拠点を持たれたきっかけを教えてください。

正村さん: 2009年10月に県や市、松江市内の企業さんからのお誘いもあり、Rubyの研究所としてここに拠点を設けました。現在は、Ruby関連以外のエンジニアも含め4人でここを利用しています。

ー実際に松江に拠点を持って、どうですか?

野崎さん: メリットはいくつかあります。まずは、Rubyの技術者の方々とのコミュニケーションがあるということです。サロンやカンファレンスなどを通して多くの人と関わることが出来ます。まつもとさんのお話が直に聞ける機会もありますし、東京の方がエンジニアは多いのですが、松江ならではの魅力もたくさんありますね。

正村さん: また、県や市からの協力があることも大きいです。Ruby開発が未経験の企業ではRubyでのシステム開発に、どうしても二の足を踏みがちです。お客様にシステムの質を保証するためには、安心・安全を保証するため、相応の投資が必要になります。しかし、ここでは県からの助成金のお陰で、コスト面での不安を解消し、実際の案件をRubyで組んでみる事ができます。実際の案件の中でエンジニアのスキルも磨かれます。

ーRubyがJIS規格に制定されてからの案件の増加傾向はいかがですか?また、OSS利用の状況はいかがでしょう?

正村さん: じんわり。Rubyで試しにやってみよう、という大手企業からのオファーが東京で徐々に出てきましたね。OSS利用に関しては、企業が海外で「使うため」のシステムではなく、「勝つため」のシステムを求めている中、利用価値を強く感じています。現在、多くの産業でグローバル展開が進み、海外における拠点を築いています。海外の拠点でも同じシステムを使えると、企業も都合が良いのですが、そうはいきません。日本企業のシステムを海外の拠点に持っていくことは“ソフトウェアの輸出”にあたるため、多くの制限を伴うのです。「勝つ」システムにするためには、輸出しなくて良くて、安価に出来るもの。そこで海外の拠点でOSSのアプリケーションを自らダウンロードし、システムを使う形であれば、輸出する必要もなくなります。